

# 参考資料

---

## 参考資料目次

|                          |    |
|--------------------------|----|
| (1) 「高校生のための学びの基礎診断」の仕組み | 1  |
| (2) 高大接続改革               | 13 |
| (3) 高等学校教育に関する現状         | 20 |
| (4) 調査研究                 | 34 |
| (5) 教育課程の見直し             | 39 |
| (6) 学習評価                 | 56 |

# (1)「高校生のための学びの基礎診断」の仕組み

## 「高校生のための学びの基礎診断」制度のイメージ

- 平成28年3月の高大接続システム改革会議「最終報告」を踏まえ、有識者による検討・準備グループ等において具体的な検討を推進。同グループによる「論点整理」（平成29年3月）や試行調査（平成29年1～3月）の結果を踏まえ、平成29年7月に「高校生のための学びの基礎診断」実施方針を策定。
- 「高校生に求められる基礎学力の確実な習得」と「学習意欲の喚起」を図るため、**文部科学省が一定の要件を示し、民間の試験等を認定する仕組みを創設し、多様な民間の試験等（測定ツール）の開発・提供、その利活用を促進。**それにより、**高校生の基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの取組を促進。**
- 今後、「高校生のための学びの基礎診断」検討ワーキング・グループにおける専門的な検討を踏まえた認定基準等の原案について、高校・教育委員会等の関係者、民間事業者等の意見やパブリックコメントによって得られた意見等を考慮しつつ、**平成29年度中を目途に認定基準等を策定し、平成30年度中に認定制度の運用を開始**することを目指す。

国

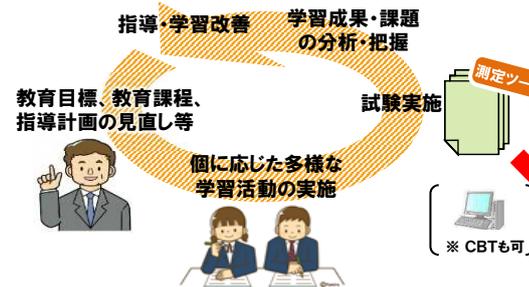
### 高等学校における基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの構築

取組を促進

高校

社会で自立するために必要な基礎学力について、各学校がそれぞれの実情を踏まえて目標を設定し、教育課程を編成。

多様な測定ツールを活用しながら生徒の学習状況を多面的に評価し、指導の工夫・充実を図っていく。



各学校の実情等を踏まえ、適切な測定ツールを、必要に応じて組み合わせながら選択・活用

測定ツールの充実

### 「高校生のための学びの基礎診断」の仕組みの構築 (一定の要件に即して民間の試験等を認定する仕組みを創設)

認定基準等の設定 審査・事後チェック体制の整備

仕組みの構築と運用を通じて、民間事業者等から高等学校の実態に応じて選択可能な多様な測定ツールが開発・提供され、その利活用が促進されることが期待

認定基準(原案)

- (出題)
- ・学習指導要領を踏まえた出題の基本方針に基づく問題設計
  - ・対象教科は国・数・英（共通必修科目中心、義務教育段階含む）
  - ・主として知識・技能を問う問題に加え、主として思考力・判断力・表現力等を問う問題の出題
  - ・記述式問題の出題 ・英語4技能測定
- (結果提供)
- ・学習成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資する結果提供
- 等



教育委員会等

教育委員会等による  
学校への支援

- 高校の魅力づくりとともに、質の確保のための体制強化や再編整備
- 学校支援のための人材配置や予算措置、教員研修等の取組

# 「高校生のための学びの基礎診断」の活用方法イメージ

## 教育委員会等としての取組

- 基礎学力定着に向けた「基本方針や施策の企画・立案」
- 人材配置や予算など「学校支援の実施」

## 高等学校での取組

### 学校

- 測定ツールの活用を通じて、基礎学力の習得や学習意欲の喚起に資する「カリキュラム・マネジメントの確立」

### 学校におけるマネジメントツールとしての活用イメージ例

- ・学校の教育目標の達成指標として活用。
- ・一人ひとりの生徒のつまずき箇所を分析し、弱点克服に向けて個別に学習指導や支援を行うために活用。
- ・学校の実態を基に、加配や補習指導員を活用した少人数・習熟度別授業を行ったり、学校設定科目の内容を設定・改善したりするなど教育課程編成の工夫を行うために活用。 など

### 生徒

- 測定ツールの活用を通じた指導の工夫により、生徒の興味・関心を引き出し、生徒自ら「学びの質の向上」に取り組めるようにする

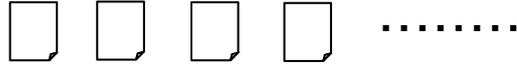
### 生徒自身の学びの質の向上への活用イメージ例

- ・テストの結果から自らの強みと弱みを理解させ、効果的に学習に取り組ませるために活用。
- ・社会で自立するために必要とされる基礎学力について認識させ、学習への動機づけを行うために活用。
- ・義務教育段階の学び直しから学習の成果や達成感を実感させ、自己肯定感・自己有用感を高めさせるために活用。 など

## 「高校生のための学びの基礎診断」の基本仕様

- 学習指導要領に対応し、高校生の基礎的な学力の定着度合いを確認する出題。
- 受検者（学級、学年等）の学習成果や課題について確認できる結果提供。

## 「学びの基礎診断」として認定された測定ツール群



基準や高等学校の多様なニーズに対応し、民間において創意工夫を生かした多様な測定ツールを開発・提供

各学校の実情や受検料負担等を踏まえ、適切な測定ツールを、必要に応じて組み合わせながら選択・活用

## 個々の高等学校における「高校生のための学びの基礎診断」を用いたPDCAサイクルのイメージ例

### 【Plan】

- 学校の教育目標の一つとして、高校入試の結果や内申書等から一人ひとりの生徒の実態を把握しつつ、生徒に身につけさせたい学力の水準や把握の方法（自校にふさわしい測定ツールの選択等）を設定。
- 目標に準拠した教育課程を編成。各教科において指導計画を策定し、学校の全体の取組として共有。

### 【Do】

- 指導計画に基づき、生徒の実態を踏まえながら日々の学習指導と学習評価を実施。（適宜指導計画の見直しと、指導方法の工夫を行う。）

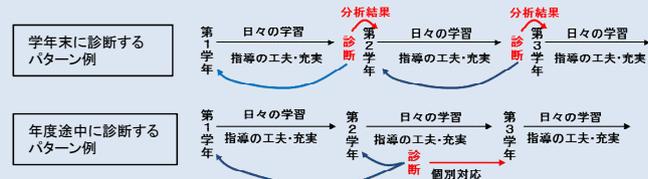
### 【Check】

- 測定ツールを用いて、生徒の学力の定着度合いを把握し、生徒の学習成果と課題を分析。（学校の実情に応じて適切な時期に活用できる。）

### 【Action】

- 分析結果をもとに学校としての対応策を検討し、次年度の計画と取組に反映（教育課程や指導計画、指導方法、生徒の個別課題対応等）。

- 一人ひとりの経年的な変化（学力の伸び）を確認し、分析結果を指導の工夫・充実に活用。



# 「高校生のための学びの基礎診断」に関する今後の展開イメージ

2015年度 2016年度 2017年度 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度

検証・見直し

次期高等学校学習指導要領  
(学年進行)

完全移行

## 高等学校における基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの構築

高大接続システム改革会議での検討 ↓ 最終報告

### 【取組1】

高校における取組を促進

周知・広報

各学校における多様な測定ツールを活用した指導の工夫・充実

### 【取組2】

測定ツールの充実

認定制度の創設

準備・広報

認定制度の運用（測定ツールの充実・発展）

※継続的に実施状況をチェック

運用開始（申請→審査→認定→利活用→点検）

調査研究の結果等から課題や成果を基に随時改善

調査研究

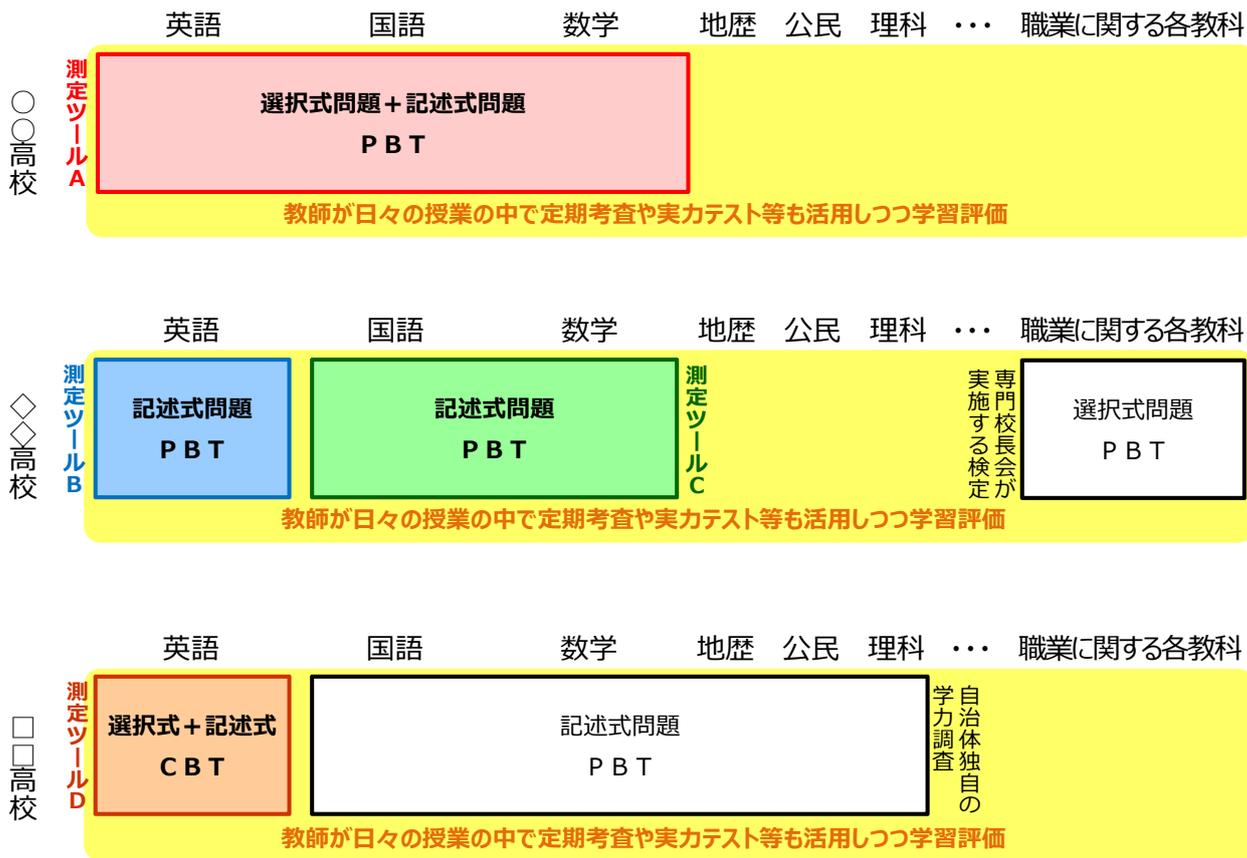
### 【取組3】

調査研究の継続

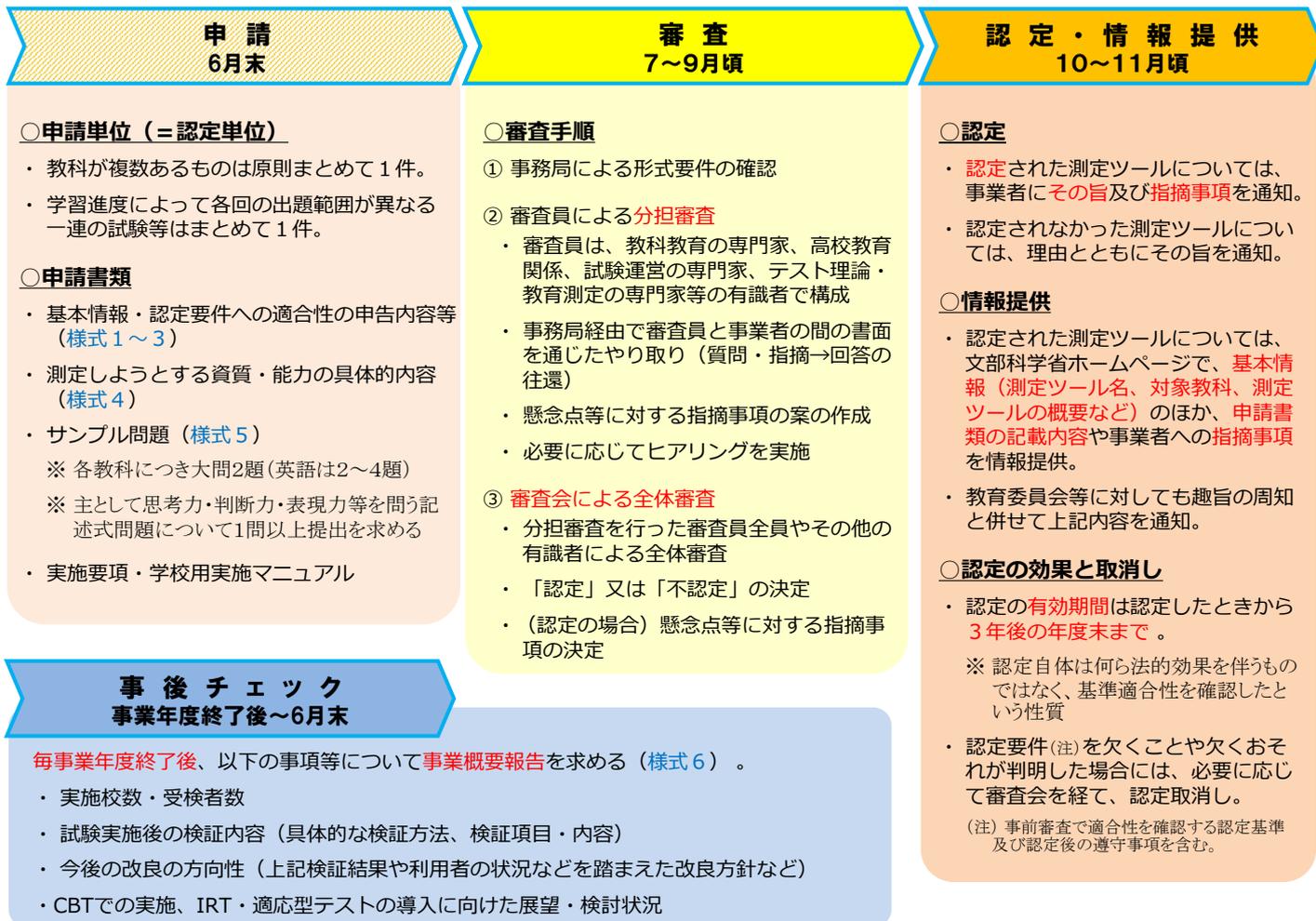
- 実践研究校での取組結果等を踏まえたPDCA構築に向けた課題分析・改善方策の検討
- CBTなどテスト手法に関する調査研究

# 測定ツールの選択イメージ例

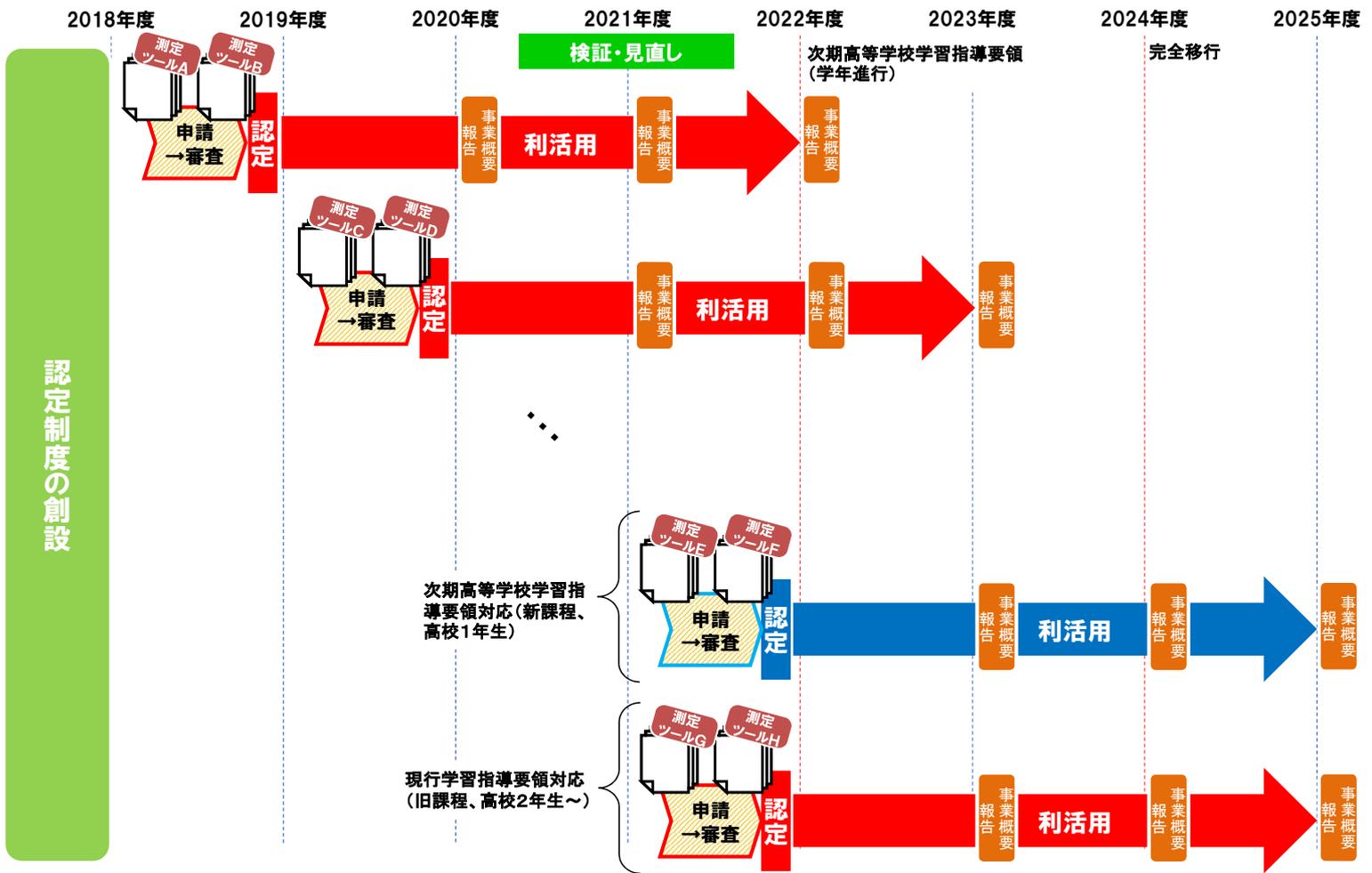
各学校の実情や受検料負担等を踏まえ、適切な測定ツールを、必要に応じて組み合わせながら選択・活用



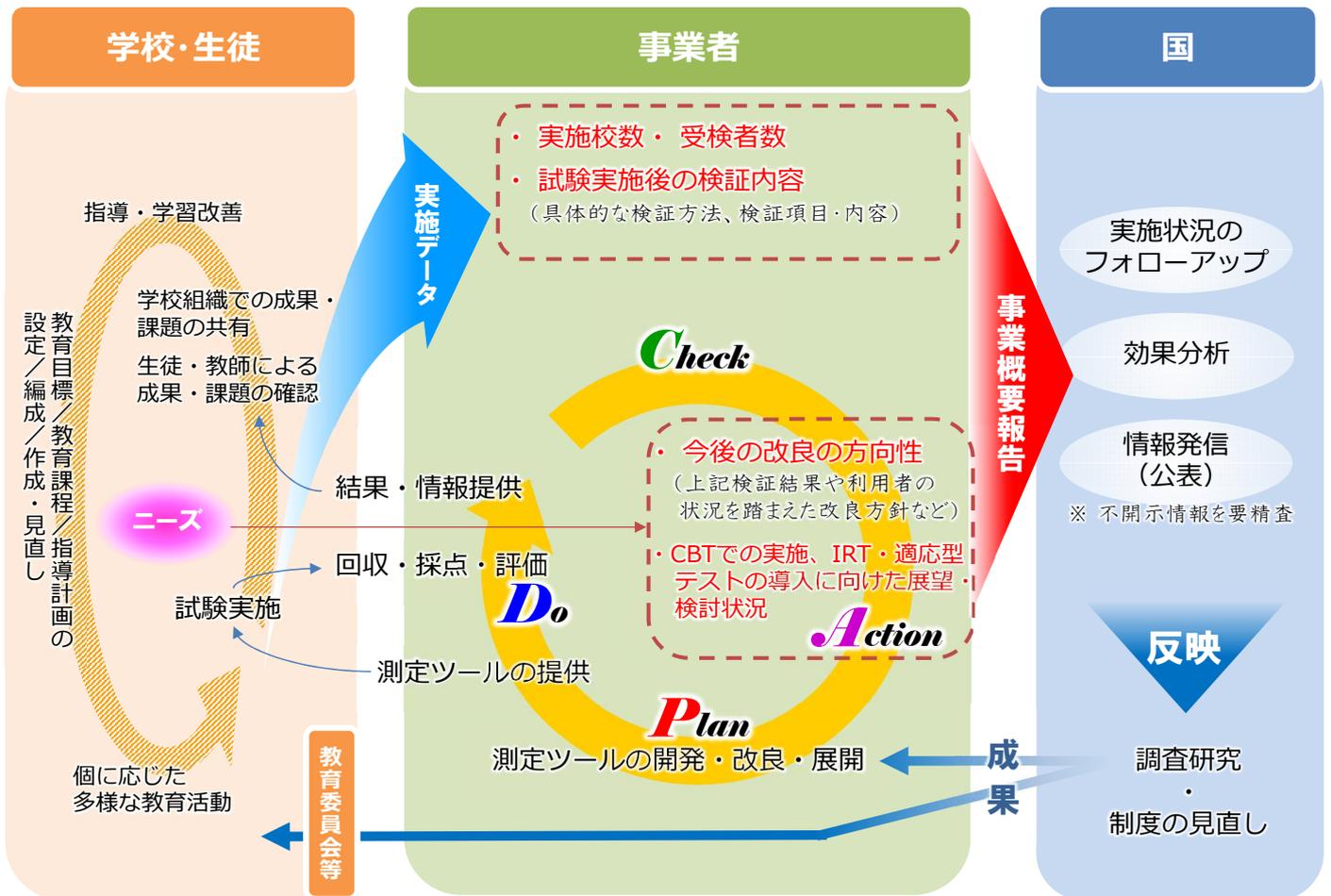
## 「高校生のための学びの基礎診断」に関する手続の流れ（イメージ）



# 認定の有効期間イメージ



# 事業概要報告イメージ



# 「高校生のための学びの基礎診断」に認定された測定ツールの 文部科学省ホームページによる情報提供（イメージ）

認定された測定ツールについては、文部科学省ホームページで、

**基本情報**（測定内容の区分、測定ツール名、事業者名、主な対象者、対象教科、目的・概要、特長・活用例等、実施期間、年間実施回数、実施方式、試験時間、受検料、標準返却期間等）

**詳細情報**（申請書類の記載内容（様式1～5）、事業者への指摘事項、事業概要報告）

の一覧を掲載し、高等学校や教育委員会等への情報提供を行う。

2018年度「高校生のための学びの基礎診断」認定測定ツール一覧  
(認定有効期間：2018年●●月●●日～2022年3月31日)

| 測定内容の区分 | 測定ツール名<br>(難易度等)  | 事業者名   | 主な対象者             | 対象教科 |    |    | 目的・概要                                | 特長・活用例等                   | 実施期間、年間実施回数 | 実施方式<br>(CBT/PBT) | 試験時間<br>(分) | 受検料   | 標準返却期間 | URL (事業者のHPにおける商品・サービス紹介) | 申請書類の記載内容<br>(様式1～5) | 事業者への指摘事項 | 事業概要報告 |
|---------|-------------------|--------|-------------------|------|----|----|--------------------------------------|---------------------------|-------------|-------------------|-------------|-------|--------|---------------------------|----------------------|-----------|--------|
|         |                   |        |                   | 国語   | 数学 | 英語 |                                      |                           |             |                   |             |       |        |                           |                      |           |        |
| 基本タイプ   | ◇◇診断              | (株)□□社 | 高校1年生             |      |    | ○  | 中学校「英語」の学習内容の定着度合いを重点的に診断することを目的とし、… | 事後教材により、弱点を徹底的に克服することが…   | 年3回         | CBT/PBT<br>(選択可)  | 90分         | ◆千円/回 | 3週間    | http://○○○○               |                      |           |        |
|         | ▽▽アセスメント<br>(基礎編) | △△会    | 基礎学力を確実に定着させたい高校生 | ○    | ○  | ○  | 基礎学力の確実な定着を図るため、中学校の学習内容の定着度合いを測定し、… | 学年全体の傾向から、PDCAに資する方策を提案…  | 年2回         | CBT               | 各教科50分      | ◆千円/回 | 2週間    | http://▽▽▽▽               |                      |           |        |
|         | ⋮                 | ⋮      | ⋮                 | ⋮    | ⋮  | ⋮  | ⋮                                    | ⋮                         | ⋮           | ⋮                 | ⋮           | ⋮     | ⋮      | ⋮                         | ⋮                    | ⋮         | ⋮      |
| 標準タイプ   | ☆☆診断<br>(応用レベル)   | ▲▲株式会社 | 高校生(進学希望者向け)      |      |    | ○  | 進学に必要な学力の土台を築くため、数学の基礎学力を正確に診断するため、… | IRTに基づき、同一の尺度で学力を測定することが… | 年2回         | PBT               | 50分         | ▼千円/回 | 2週間    | http://☆☆☆☆               |                      |           |        |
|         | ★★評価              | ●●会    | 高校1～2年生           | ○    | ○  | ○  | 国・数・英3教科の基礎学力を総合的に評価し、得意・不得意の把握を…    | 8段階の絶対評価により、きめ細かな測定を行い…   | 年3回         | CBT/PBT<br>(選択可)  | 各教科45分      | ▼千円/回 | 1か月    | http://★★★★               |                      |           |        |
|         | ⋮                 | ⋮      | ⋮                 | ⋮    | ⋮  | ⋮  | ⋮                                    | ⋮                         | ⋮           | ⋮                 | ⋮           | ⋮     | ⋮      | ⋮                         | ⋮                    | ⋮         | ⋮      |

## 「高校生のための学びの基礎診断」の測定内容の区分について（イメージ）

- 民間事業者は、測定ツールが提供する**問題全体として適当なタイプを選択**の上、申請（学習進度に配慮して出題範囲を設定する測定ツールについては、各回を通じた一連の試験等全体に照らして適切なタイプを選択）

| 基本タイプ                                     | 標準タイプ   |
|---|---|
| 義務教育段階の学習内容の定着度合いを測定することを <b>重視</b> したタイプ | 高等学校段階の <b>共通必修科目</b> の学習内容の定着度合いを測定することを <b>重視</b> したタイプ |
| A1  | A2  |
| B1  |   |

(参考)

英語における  
CEFRの目安

※「高校生のための学びの基礎診断」の認定基準・手続等について（原案）」（抜粋）

### I. 4. (1) 認定基準

対象教科は国語、数学又は英語とし、共通必修科目を中心に出题すること、義務教育段階の内容を含むことを明らかにしていること。ただし、義務教育段階の学習内容の定着度合いを測定することを重視することを明らかにしている測定ツールについて共通必修科目からの出題を少なく設定すること、あるいは、学習進度に配慮して出題範囲を設定する場合において、受検時期に応じて共通必修科目からの出題を少なく設定し、又は義務教育段階の内容を含まない設定とすることは、差し支えない。

### III. 基礎診断に望まれる事項（多様なレベルの問題セット）

一つの民間事業者等が難易度の異なる複数レベルの問題セットを提供する場合には、それぞれの問題セットにおけるスコアや評価の考え方などの関係性を明らかにしておくことが望まれる。

- 学校等の選択に資するよう、**文部科学省ホームページで、これらのタイプ別に情報提供**

2018年度「高校生のための学びの基礎診断」認定測定ツール一覧  
(認定有効期間：2018年●●月●●日～2022年3月31日)

| 測定内容の区分 | 測定ツール名<br>(難易度等)  | 事業者名   | 主な対象者             | 対象教科 |    |    | … |
|---------|-------------------|--------|-------------------|------|----|----|---|
|         |                   |        |                   | 国語   | 数学 | 英語 |   |
| 基本タイプ   | ◇◇診断              | (株)□□社 | 高校1年生             |      |    | ○  | … |
|         | ▽▽アセスメント<br>(基礎編) | △△会    | 基礎学力を確実に定着させたい高校生 | ○    | ○  | ○  | … |
|         | ⋮                 | ⋮      | ⋮                 | ⋮    | ⋮  | ⋮  | … |
| 標準タイプ   | ☆☆診断<br>(応用レベル)   | ▲▲株式会社 | 高校生(進学希望者向け)      |      |    | ○  | … |
|         | ★★評価              | ●●会    | 高校1～2年生           | ○    | ○  | ○  | … |
|         | ⋮                 | ⋮      | ⋮                 | ⋮    | ⋮  | ⋮  | … |

# 「高校生のための学びの基礎診断」の活用モデル例

教育委員会等の方針の下で、目的・状況・ニーズ等に応じて、ふさわしい測定ツールを選択・活用

**全校共通の1つの測定ツールを活用（実施時期も統一）**

- ・ 全校共通で又は学校群等ごとに生徒の**基礎学力の定着度合いを統一的に把握**

**学力等の実態に応じて学校群等ごとに1つの測定ツールを活用**

- ・ 基礎学力向上に重点的に取り組む学校では**義務教育段階の定着度合いの測定を重視した測定ツールを活用**したり、英語教育に重点的に取り組む学校等では**英語単独の測定ツールも活用**することにより丁寧な学力把握も可能
- ・ 学習習慣等の調査も併せて行うことにより、さらに詳細な分析も可能

**実施時期等の一定の方針の下、個々の学校や学科、学級等の状況に合った測定ツールを活用**

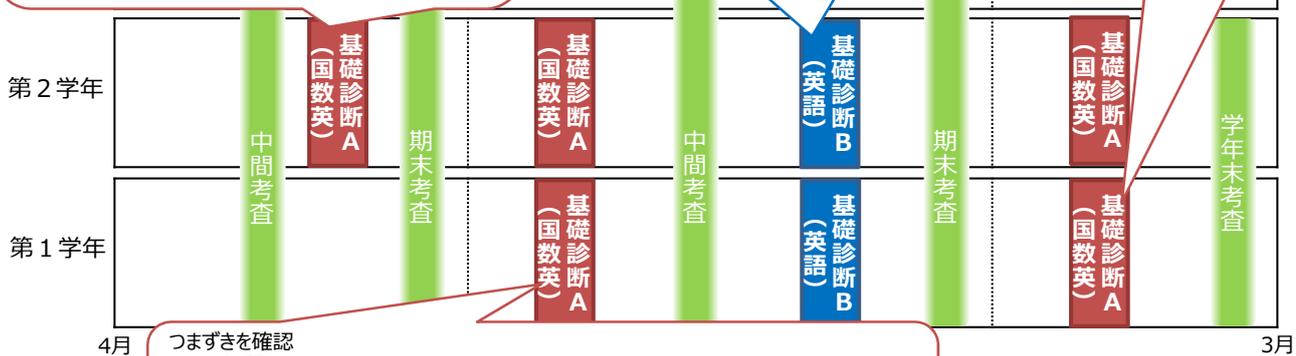
前回からの伸びやつまずきを確認

- ・ 学習改善《生徒》
- ・ 指導の工夫・充実《教師・学校》
- ・ 当該年度の指導計画等の見直し《学校》
- ・ 次年度の教職員定数の配分や補習指導員の配置数等に反映《教育委員会等》
- ・ 当該年度後期の補習指導員の配置校等の調整・見直し《教育委員会等》

国数英の3教科セットに加えて、英語教育に重点的に取り組む学校等においては、**英語単独の基礎診断**により、より丁寧な学力把握も可能

前回からの伸びやつまずきを確認

- ・ 学習改善《生徒》
- ・ 指導の工夫・充実《教師・学校》
- ・ 次年度の補習指導員の配置校等を調整《教育委員会等》



つまずきを確認

- ・ 学習改善《生徒》
- ・ 指導の工夫・充実《教師・学校》
- ・ 次年度の第1学年/第2学年（進級後の学年）の教育課程等に反映《学校》
- ・ 次年度の教職員定数の配分や補習指導員の配置数等に反映《教育委員会等》

その他適時、高校教育の基本方針の策定・見直しや基礎学力向上に取り組む重点校の指定のための一つの材料として活用 等《教育委員会等》

## 民間事業者・団体、校長会、教育委員会が実施している検定・テスト等

|                | 概要  | 年間実施回数  | 利用規模   | 料金  |
|----------------|---|---|--|---|
| 民間事業者・団体による検定  | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 国語、数学、英語について、設定した級と中学校、高校程度の教育内容との関連を意識して実施されている検定が存在</li> <li>□ また、国語における漢字など、教科における一部の知識・技能に関する検定も存在</li> </ul>                      | 級別に2~3回程度実施   | 年間延べ利用規模では、数十万人~200万人以上の受検に対応しているものが存在               | 級別や実施方法等によって受検料には大きな差が存在<br>(例)<br>・数学<br>1,500円(9~11級)<br>~ 5,000円(1級)<br>・英語<br>2~3技能: 2~3,000円<br>4技能: 5,000<br>~25,000円 |
| 民間事業者によるテスト・診断 | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 国語、数学、英語を中心に提供(義務教育段階の内容も含む)</li> <li>□ 解答方式は、マーク式、選択式を中心に、一部記述式を採用</li> <li>□ 学校単位での利活用を想定</li> </ul>                                 | 学年別に1~5回程度実施  | 1回当たりの利用数は、数万~50万規模<br>年間延べ200万規模で利用されているものも存在       | 1回当たりの受検料は2,000円台~5,000円台の設定が比較的多く見られる  |
| 校長会による検定       | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 農業、工業、商業、水産、家庭といった専門高校校長会等において当該専門分野特有の知識・技能に関する多種多様な検定を実施</li> <li>□ 学習指導要領に沿った出題により、学校における学習成果を確認できるものも存在</li> </ul>                 | 級別に1~2回程度実施   | 数万~10、20万人規模のものが比較的多く見られる<br>・最少で数十人規模<br>・最大で44万人規模 | 1回当たりの受検料は1,000円台の設定が比較的多く見られる  |
| 教育委員会による学力調査等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学力調査等を実施しているのは15都道府県<br/>※うち、悉皆実施(8)、希望参加(6)、抽出(1)</li> <li>□ 実施目的は、概ね「施策立案」、「入学時の学力把握」、「在学中の学力確認」、「生徒の学力定着度合いの把握」の4つに分類が可能</li> </ul> | 様々な形で実施<br>・特定学年で1回(5)<br>・複数学年で1回(5)<br>・年に複数回(3)<br>・複数年ごと実施(2) | 小規模なもので1、2年各1クラス6,000人規模<br>大規模なもので3万人を超える規模で実施      | 生徒負担なし(11)<br>生徒負担あり(4)<br>・1教科数十円<br>~3教科1,000円程度  |